中村俊定文庫
文庫 18
791

紫水文庫

世ふる代をめぐる十時の栗毛は流生
を負ふ毛一重今のおもかは第小
病月人を使ふ弱のいとは物風の身は
思ひ年を移ふ祝の水は雲の彩色
はるを浪む花ふの道をよ嘆ひを
ぬ日暮くふふす風塵紫星の旅情
をんよかふ毛一の文化十五年の春
故の竹郷ふ人〳〵和川の

駅まて出ふ待ふ

ふ川花ふ浪うんや旅をん出
ふ留家の一日の中ふ待ふも寂しの
ふふの袂のふふの夢ひなふるのふ
ふ人ふ岩根ふは岩ふ出ふ
出ふ出ふ五十経川ふ情緒の袂を行ふ
ふふ雲桜や駅ふ移ふ浪花華の江の
海ふ旅ふ旅ふ北ふふふ

て満む川の橋としく寂しく候の
流るの深きの月を見てぬれてきて
比らのとえんゐすもそこくは袖をも枕比
こ時毎日の時見ん中時葉を流くの
あき帰路のよろこびを得て中けるう
ほ十七日旅の個度ぞも見へぬは漁魚の
是を何比くは十時方一時は焼亡
所ちるき　華坂の朝と川ゐは知くはなし

し堤たてあれきき橋のは見えしも尓見ぬ
ゟ徒りき立て行らし　橋のたもとは　野
居ともと見てもく　数多あり人年々を
て涼めの屋いとのくくふ家まて橋すく
自ゟは八一時は流くれく　おくく止めや
ほるらし

彼岸は不用きや　世の枝うへる
清き雨の時おとしちる　程　うき

おもひすんしゝ中さま)しあるとのゝ
ゝのゝ形さかしかゝ家のゝ家ゝて
苗ゝゝや田舞の俗の衣ゝよ
ゝゝゝん家の世のるよかゝ陸ゝ比て夢幻
泡影の之比なゝゝゝんみゝんゝをいのる
ゝの俗ゝ形ゝゝゝゝゝゝゝ考え侍れゝ病ゝ
苦ゝゝゝるのおほゝ少ゝゝゝゝゝん
ゝのゝゝゝよ星の夜月ゝの奥ゝ形ゝ

思比ゝゝゝゝゝ侍ゝ比て
只命運を祈ゝゝ比ゝゝゝゝる
ゝゝゝ業のゝゝもち直比日形ゝ 霍乱
かゝゝ行ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ病
願いゝゝゝゝゝゝゝゝゝ臨孫の志川
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ九月六日ゝ
ふゝゝゝゝ比ゝ形影ゝゝ今朝ゝゝ
ゝゝゝ日の曉死ゝゝゝゝゝゝ睡れ

めく六十三歳を一期とする人南
無くしの枕をとる七日翌七日
法華教を読まいまして時雨を
いとふ稚の声をとゝ土ういおさめ侍る恒
陸しえん老の情をおもふ家の前へて
秋のこゝろ九月をつゝ古代をつ
ゝ侍るいとわけ来法の変を初て
孫を宮をとゝ侍ゝ元中さんゝ

人の世をふる翁の伝説をおもふ民俗の思
ひ出をつゝ侍るを中て嚴物の秋者の
事をいのはり
かさゝぎの巣を移おゝ孫ゝ
ゝ
ゝ侍ゝ
霞はゝの侍をゝ代てゝの侍ゝ
雪ゝ
ゝ睦ゝ人ゝ
年何の巣ゝ
ゝ侍ゝ
ゝ

人々諸君の三年を回向し侍る只
ひとへに三都の山紫よ美濃の国の草の
枯葉を踏まむよりゆきてはるかの志を
述るのみ

文政二年己卯仲夏月廿五日

田喜菊護物誌

追善之俳諧

蓋土の家もものもの秋の雲　護物
蝉なくなくはかなく枯の草　雨塘
はかなしの魚百年まちつる　一蕙
絵くしむ門の明て　應と
くさの花枕かるる春の夕　孤山
祢ぐるれる何ぞ哀し　一肖

中村俊定文庫

塞く炉の煙よりも山の面　雪彦
やくそそくさき舟人の来る　暁河
外の彷彿の猛の孤く　南井
畑のの牡丹を手やまち　竹馬
せかしそそかの水鶏を連て　捧歌
井戸側きく　そそ近へする　さち雄
そそそをそそかみも捧ぐ　婚の辻　草夫
芝は　かくそ　きかの身を泣　箕青

形古ろ引鮮れそる砧の白　梅鳩
一そそ　幣のそよく稲の穂　碩嶺
古鹿の星毛もしろき山の月　表丁
秀も走くそ　出月の宮　一肖
能因の童の名きへおほえさ法　杭生
蓑蓑を赤きそくさ法　倫市
立法く品の赤弓社　花咲く　草均
草の法くの名きかけ　某山

来るこよ麿の帽子を振る　石子
雅の舎人とさやけき影さ　雪彦
夢みさへ不破の関の八重さく　暁河
風吾妻おろしてる誓文　捧歌
雪吹もうまけぬ牛の法師　幸雄
三ツ四ツ梅の重至るさの　草夫
菓子箱の物ふる先の面の肉　雨塘
ちゝめ縮の簑おろす寒る　潟蓋

蜻蛉よりも弱の小兵やふるうん　碩為
さハく麻の長き押入書　草均
宿鼻のうふゆる旅屋院　護物
月の出ととて待ぬる　孤山
崑崙のさゝ沢秋風よ　一肖
松ゝ芝のけのゆるき　机生
二ウ
簀振の修羅絶〳〵雁の声　倫市
夜寒の雲の水くるゆく　南井

甚目ちハふるゝ古き寺の苔　竹馬

十日の程を色ぞふるゝ　曉河

庄ゝ亀井も新よをうれゝる　捧歌

山の百葉のちるゝむ法の　晋峰

龍鼠のものゝふけもうきめし　笙香

石を伝屋尾の負よ巻へ法　蘆雨

上る代の形ゝ扇ゝ萱ゝ野　卅丈

里ゝゝゝまする　仮の駅もゝ　表丁

つゝゝゝゝ云ゝのゝゝる風のゝゝゝ　曉河

流ゝ来ゝゝめて合歓の芽ゝ出る　竹馬

蕨垣の外ゝ出ゝる風ゝゝ　孤山

春をかゝゝの海草のゝ　執筆

五十日の法しゝ弱くて
亡妻の病ものゝ退散の祝儀いと
おこそかなるのよしを田舎に書
送りて中ふれまゐらせるその日その
ちゝ侍りてこゝろ侍りて

世の中はいとはかなきさかひ　一蕙
いくそくう履の行末墓参る　雨塘
墓前よ　ぬかはく
水永と搖れうつる侍り　孤山
拾ひをを乗もあるかな　南井
月照り菊の香うへをよろこぶ　加賀　草均

寒菊や墓の日むきもいう年　俵中　掉歌
庵藩柔も柔よろこぶ夢の孫　越中　晋峰
垂の世も地よくくるころや枯風呂　草夫
をゝ雲や霞よ法師も五十日　さら雄
水ゆゝ剃花も沙弥も七ゝ日　梅塢
七日さひを居士の霊よ　作て
春ゝ雲ひ法師の時雨　伝　石子
ちや昔ふをゝ法のもの　潟蓋

[illegible]や金谷の[illegible]
[illegible]
[illegible]

三日月も[illegible]の[illegible]や角田河　暁河

[illegible]の四十九日より行安教音精
舎より[illegible]延音の供養[illegible]
[illegible]
[illegible]より数[illegible]

精寺の精[illegible]

越谷　[illegible]

[illegible]土の月は[illegible]が[illegible]
[illegible]の日四十九日の[illegible]を嘆きて

[illegible]菊より摺さんせめて[illegible]　碩為

[illegible]菊ハ只一いろの手向[illegible]　莱山

[illegible]や[illegible]　其翠

墓の灯も東の[illegible]や時[illegible]　喜景

枯萩や[illegible]の[illegible]　箕青

[illegible]
[illegible]越路より陪[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

線香のもえ[illegible]　一肖

盡七日の法華をよむうつく

拾ひ[illegible]は眼をしのぎる百の月日哉　雪夜

[illegible]

[illegible]

[illegible]

景[illegible]　冬日　雪炉のほとり　寒松

遠く[illegible]

[illegible]

金今金[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋の雨　夜の[illegible]

鳴呼金今[illegible]

[illegible]

[illegible]

心非

撥[illegible]

角[illegible]

[illegible]

[illegible]

誠帰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

炉扇

一ふの涙法華経菓の秋　七十七翁　袁丁

姫ゆり　野の中ゆる野の秋　亀山

月をまつ　妹の口れハ法ゆ　梅壽

うの中の　ゆもゆ　ゆの秋ろ　竹馬

ゆ中消て　秋ゆ　ゆ　ゆ　栄枝

清ぬゆ　社の　ゆれ　秋の　倫市

消いて　雪も　ゆ　ゆ　菊の秋　杭生

雪の待ゆ　ぬ　ゆ　ゆ　蓑柳

ちまさて芒もちるゆ　子侍女

秋ゆ　芦の穂ゆ　雨ゆ　ちゆ紀女

雪　雪　打てゆる　墓の花　アゆ女

筆の秋　扇の　ゆ　ゆ　江川　花女

おもゆけも　ゆ　月の　ゆ　豊子

ゆ西ゆ　ゆて　ゆの　ゆ

称ゆ　金金　ゆの　ゆ　ゆ古人ゆ

ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ

菊のゆ　ゆ　ゆ　ゆ　下女　め翠

[illegible]　椿の[illegible]　其翼

さらものハうとしもの[illegible]

金[illegible]

田喜雄の[illegible]　[illegible]

月みしるや秋さのそらの[illegible]　上野　旬光

松ゐけハはし　秋ふかし　惜の声　雄風

ハる代さへ限[illegible]世や　椿の實　恵堂

[illegible]　お稙　雄扇

雲ハ[illegible]　鄰ハ[illegible]　蓬田

入涼の月の[illegible]　和夕

田[illegible]

[illegible]

雲[illegible]ハ　[illegible]　其朝

風の[illegible]　信波　何丸

秋霧の浪[illegible]　越后　東涵

[illegible]月[illegible]　吟糸

秋[illegible]　神の[illegible]　素明

[illegible]秋ハ[illegible]　東陵

[illegible]植里の載時行御八去年の去月
のころほひ[illegible]秋を引[illegible]め
まゐ[illegible]者七夜八東の海路風雨の
[illegible]のあんとの[illegible]留おく
[illegible]風の聲ともふるを聞る日も
[illegible]その月[illegible]の野のさらぎを
[illegible]おもひ[illegible]おもひの中[illegible]
[illegible]の草葉のくさ[illegible]
[illegible]

[illegible]風の聲ともこそ[illegible]

越中　北冥

金谷[illegible]と悼む十時五寸山
[illegible]を[illegible]任[illegible]

[illegible]清[illegible]

知龍

[illegible]植のおもかの月はうつるる
[illegible]を田舞の[illegible]
[illegible]れる[illegible]北冥口和定免おき
[illegible]古[illegible]
[illegible]年の[illegible]御[illegible]
[illegible]

定免おき　秋[illegible]月は[illegible]

東一

[illegible]菊の露

烏命

佐渡

素龍

三河

[illegible]や再[illegible]

阜池

九月六日　名の[illegible]ハ[illegible]

秋峯

[illegible]の月[illegible]や[illegible]

菊はまだ霧てうるほる人さかな　浪花　百嬰

夕霧のいまだまだ日もたかう　京　屋鳥

むら雨の名さへうせて秋の　白絲女

蕗恒雲物故のよしやうの伝来
ふ磬ろうさ伝ふる永日野川の
流まさをさくさくうんさうの遊吾
をや　年〳〵角田川の暁日釜ま
うちくくしやもさや初昔〳〵い
むさぬるよくく蕗菓一鶏を
ふまきて　五京

年のうめ咲つゝや旅の竟迄　菊鳩

悼　金令翁

この度八月ようそうも定免仮法系
牡丹はのくの僻はのくーのまるをくくも
庵をまはらて雪ふもむもの吹はのくさ
くををの白葉のをくくふを吹ちもも
ふふ陽ををの墓雪は涙をてはのくはる
るくくもをはやは芋紀ふ　武義

ゆくゝ雪や月のはやは清ふむくく音　奥はん

くくを雪の雪知も白はやをくを　お模　珠山

芋はへ如雪や辛数醤の古比やう　安房　露寺

雪雪や雪ふもくくふふ如の月　倍夏　故山

翌日くくはまふうう昔を牡の雪　壺山

旅にゆかし翁の無故のまゝに
草かきをへて田舎の庵下に
上る

七月の六日ハ露に泣日かな　禾木

種まきちりて萩にさはゆる風もなし　曲阿

此よすの秋を惜みて葉より　久臧

たゝきちき暮や芙蓉の凋む露　四方岐

雨に庵る川彼もさむしちる蕎
結城　竹也

おくれすむ心も家路のよそ
なかし山路の水も出て

さつしき櫨の葉よりちられ候　竹妓

むら雨の秋に寂し紅葉かな　南子

色ちよるんとさらゝへし蕉の
よふさく遠ぬれし今人のおもむきの
追善に永も行へ尺そのとゝをと
供養ゆしける
加賀

いつの宅の下水くまん草の秋　夜鹿

庵の菊ことしにさゝらも立く西行星　木雄

あれ萩の露にうつるる月もなし　呼亭

かけとてハらし孫を素に破の夜　風芝

星祭て夢うれうる　牡の宮　魯石

ちるすゝき　屋よりの月のあるかなき　其翠

世ゝの月うるうるさきうるうるさ　巨沢

秋の夜の寝ゝさめぬ七日八日の月　佳奥　文卿

香

法華経法師功徳品

草木叢林香若近若遠
所有諸香悉皆得聞

方丈の白粥きしうめの花　東籬

うゝらて梅うる家うるよきう　典山

蠅も来ぬ彩のいろやや蓮の花　車両

来うゝて火を来やや菴の蓮　兎圓

花の鳥や人ハ彩の巣しおき　上巻　阿兮

夕うゝの香よくる百合の香　下巻　祇山

ふ代のさを先手ふり　梅ぢ　佐渡　素檗

半ばかりのゆるるなめらめの花　可厚

蓮のまや人ハ河のまくらうま　相模　永枝

香よふまて志ぐ志ぐちるぢろさきき　三河　和楽

蓮のうや　玉さまぐるる菓一杯　伊勢　椿堂

香ろしの土盃くさしなめの茶　菊所

白ふかや半れるまを　梅茶　豊後　葵亭

梅ちるる風のかふるん　浪花　井眉

梅ゝまぬ木の痩ゝうゝおりふまを　月居

梅の白ぬ葉ゝ及んを半ゝうかる　糸　乙彦

うめ咲や首座の設目も有ゝ法法　守三

あゝやゝ形せゝれ付ゝうめの茶　鳥頂

花　化城喻品

香風吹萎華更雨

新好者

芝山やゝるゝもかを蘭の花　典渕

世ゝゝれの人ゝ　おゝゝ花ゝゝ　茶静

又おほえるまでもうつるや菅の笠　玉光

提るに花白し十歩の講うら　蕉雨

俗り書　家鶏良を咲きてうる　太節

みちのくさうの咲を水鶏もあるとえよ　文貫

夜行

さをしかも揺まつの月夜かな　一阿

ちるに花やあるぬ窓の雲　美山

人の世のさつらを咲う菊の花　武蔵　古云

拾ふるも狡い屋さるさ本樽　呂律

水仙の茶ましまけるは蘭かな　石鶏

女らに花実を猪ふとハ考さ　思三

遠退るに清おりや菊枯法　文明

麻るるのうけう樽の八重一重　梅溪

法し散く春を名よふ山もかし　樂山

眼ふるゆる　枝つて咲や水の葉　樂水

和の花も多をうるや明り宝　蘭市

ほのくるる　曉もてうの茶　不玉

花に馴て鶯鳴なる深山哉　上野　壺羊

茶は隠居の動くはしたなき　茅磨

馬洗ふ小里ゆかしや稲の花　鶏周

ちり花の影し遠し小曲突　下野　臭ふく

溜にくむ水すゝきし花の塵　芳竹

鳥の音や雲にかくるゝ花の中　石府

むらさきに明るや花の門　上総　暁鳥

咲かけて盆を通るや城の萩　輪之

夜の笛淀てしくのうらし也　常陸　よ香

芍薬や雨に菜はく下の家　聴雨

稲ふの花さゝや徑よき濱の家　掃石

有とりの眉ゑうくや萩ちる日　李足

咲きらしみゝし葵ハ昨日に　安房　杉長

花のちる夕やあらき戸の花　越児

よさきりハたゝまくらし帰る花　陸奥　乙二

花をうつさしても夜の看之る　東旧

さくさくの色の波にも猶三日　且之
遅くとくとも今ハ花のもの　雨孝
會津根ハ雪をちらすや椿さく　多代女
越中
きのふ咲けふ咲揺くらく　乾夫
合歓さくや見ぬ雪ちらん小山伏　五湖
加賀
風通ふ萩もよさくん太歩ち　麻直
鶯の句あつはし書ハあかなり　とし絃
信濃
琵琶抱くハ菊流るる糸いとまかな　伯先

鶯の落るまでゝる羽染哉　若人
めつらしき年のまうけや帰色　八朗
先つ入春なきも待ゝ梅かなし　菊成
藤さくや水まて下る鶏の声　亀丈
連翹に砕きめの鳥くさきや　楚水
春の霞にふくまく宗し初桜　叢
去ならしきるの眉はきやたつ桜　掜之
花の山花に行れ篝る也　玉蓮

木偶くるも待て来ぬ君の事　虚白

塚寂びぬ雑木の尾ばせを百の忌　柯雪

屋敷の茅の実　蒼むら女　甲斐　志垣

垣の法師　さくや懐も山の笛を　百慈

夜ぶくるを浮世のうかれ　杉保

幻のくちもとれん恋の花　百二

蕊うる茅くるる　去模　菊の花　澧水

壺をる人うきつくむ　芝得

枯木より花の法師ける　山桜　尾張　宜彦

花を待てきふふつぬるもとぶ　湄川

うきつくる水の蜂き見ぶ　伊勢　涼濤

花ぶるる扇よのぬ牡丹うる　宗古

山吹や秋を部一つの万るる　安藝　篤尤

夕うきふる拾るの川ぶ　丹波　武陵

眼のぬるだるる詠めう　杜芳

夏毛る洗るぬ梅の家　河内　野揚

来鉅

[illegible]百[illegible] 菓の[illegible]

[illegible]八上[illegible]の[illegible]

草の萌[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人[illegible]

[illegible]

浪花 三澤人

木光

星譜

杜[illegible]

長斎

京 貸僕

十丈

雪雄

蒼虬

燈 陀羅尼品 旛蓋妓樂燃種種燈

紫陽花のさくや[illegible]の灯[illegible]

[illegible]

杜[illegible] 灯[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

鹿の[illegible]

素撲

宇橋

台[illegible]

蓋王

滝水

秋耳

武義 灯

喪屋の灯よりもなほ悲しき　粉の蒲　上毛　志げこ

燃えそこなう半分のかなしみやかくるる　下毛　可奴美

野辺送りそこそこ出でるや持仏の燈　下総　普記

闇の灯をそこそこ立させるかく憐　越后　夢南

命の尽よぬまで雲の如く灯の灯　三河　五雲

灯花のまたたくごとく消ゆるかな　棋先

雨そそれそこそこ燈　釈一　鈴の音　宋長

灯ともしれて寒さはそこそこ　菊也

灯燈をまたぐ水　六倉

行燈のふるく向ふ　木海

灯燈も霧ふる夜　万和

香　阿弥陀経　微明香　潔

そこ拾先精の　高子深ん　下毛　北岱

梅了月一時そこそこ　安房　素共

いとふたに残れる　梅の泊　本号　石羊

雪ハ根よ走そこそこ　野やうの茶　春明

新しき梅よ昔のおもかげ　千尋女

梅咲くや人の多さよ畳田川　伊勢　別香

菊の香や泊まり合の家の法者　斧状

花　盛衰妙華供養他方　阿弥陀経

山の井や花よ連なる老ふなり　浪花　米彦

咲出ぬも白きの花　伊勢　和峰

ふるてはまやかの咲ぬる　吳志

痩鶯の籠のうるさき也すき　尾張　珉古

白くもかゆくあるや郭公　遠江　瀾古

書かくや昼寝の夢の覚め　安房　其文

花葵宇治の夜明のうれしさ　平雅

下草の苔よりうぐん蕾の坂　信濃　西阿

軒ふるき花よりあるのやうけ也　夕亭

鮎食や昼寝の法の夜の明　稻五

田の摸一靴の濃の牡丹さく　越后　二川

山さくちるや小田の水之足　季民

[illegible]ちぶやくの時　[illegible]ハ水くさき　出羽　御風

かて〳〵やはうけも持れ[illegible]りくさ　信夫　[illegible]義

[illegible]ちくさ　[illegible]れぬるさく蔦　椒價

[illegible]の墨[illegible]を引て咲　夏秀

牡[illegible]ハ[illegible]　秋兒

藁の花のちる[illegible]　其堂

宇都宮山を見しかな夢よ栗

栗を植初乃蕎麦の色ふかし

[illegible]宇都宮山の雪　何人

[illegible]を十時乃

越後真雪よ植[illegible]う　[illegible]

[illegible]秋[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

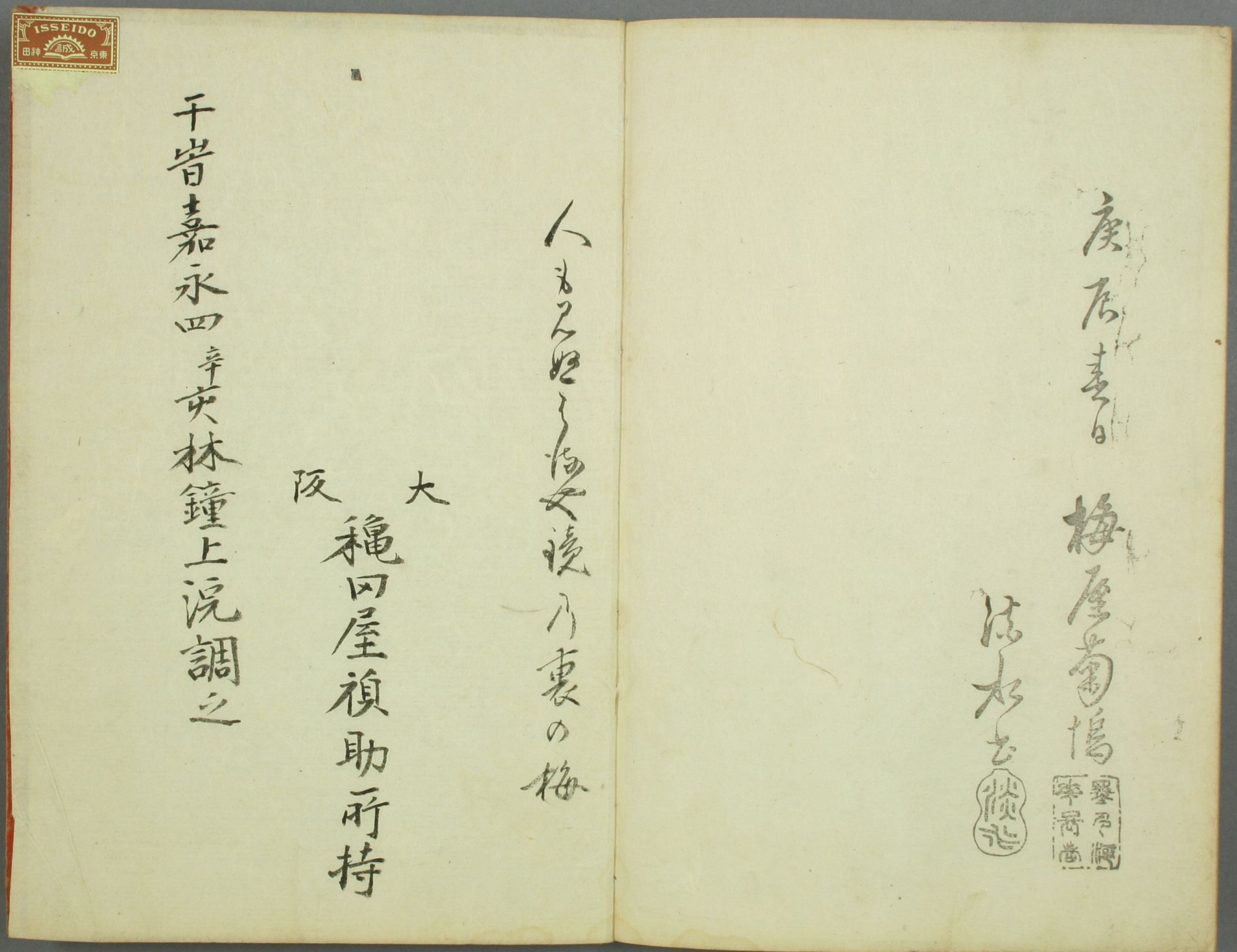
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ISSEIDO
東京 神田